

短期滞在手術 普及進む

そけいヘルニア、下肢静脈瘤、痔…



そけいヘルニアの日帰り手術。1時間程度で終了した二みやざき外科・ヘルニアクリニック

手術当日、もしくは翌日に帰宅する短期滞在手術。デスクワークなど軽めの仕事なら翌日から可能で、長期入院のわずらわしさはない。入院費がかからなかったり、削減することができるため、医療費が安くすむ。患者からの要望も多く、道内でも積極的に取り組む医療機関が増えている。(須藤幸恵)

小樽市の男性理容師(五十)は今年三月、札幌市中央区のみやざき外科・ヘルニアクリニックで、そけい(脚の付け根)部のヘルニアの日帰り手術を受けた。当日は午前九時までに来院し、手術衣に着替えるなどの準備をしてから手術室へ。九時半すぎに始まり、一時間ほどで終了した。傷り手術を知り、受診した。

「手術の詳しい説明があったし、帰ってからもういっつも先生の携帯電話に連絡できるの、不安はなかった」と満足そうだ。

男性は小さいころからヘルニアを患っていたが、手術の決断がつかなく、一カ月後に診察があり、術日と合わせ四回の通院で治療は終わる。初診から一

カ月後の診察を含めてすべての医療費は、三割負担の場合で五万円程度ですむ。

現在、道内で日帰り手術が行われているのは、そけいヘルニアや下肢静脈瘤、痔、乳腺のしこり、甲状腺腫瘍、大腸ポリープ、自然気胸、白内障、尿失禁など。

傷が小さく、痛みが少ない手術が大半だ。従来は、こうした手術でも、合併症や痛みなどに速やかに対応するため、一週間にわたって入院し、様子

「仕事休めぬ」家族を介護 患者からの要望多く

を見ることが多かった。しかし、内視鏡や痛みを少なくする手術方法が普及してきたことなどから、日帰り手術が可能になった。

これまでに約千七百例の日帰り手術の実績を持つ同クリニックの宮崎恭介院長は「日本では入院しないで手術をするという概念がなかっただけで、米国では手術の大半が日帰り。手術翌日から通常の生活を続けられ、精神的、肉体的、経済的な利点は大きい」と

手術を受けても完治したわけではないので、可能なならばしばらくは自宅での安静が望ましいという。心臓疾患や肝硬変など腹水があるなど、重篤な疾患がある場合は日帰り手術はできない。

話す。もちろんリスクもある。三年前から日帰り手術センターを設けている函館共愛会・共愛会病院(函館市中島町)の折原暁外科部長は「例えば、痔の手術では術後出血など、どの手術でも必ず問題点はある。患者自身が手術の利点、欠点を十分に理解し、異常があったときにはすぐ来院するなど、本人と家族の協力が必要となる」と指摘する。

同病院では、術前に手術内容や合併症について十分に説明。手術翌日にもケアコーディネーターが連絡をとり、容体を確認している。他の日帰り手術を行っている医療機関と同じく、二十四時間態勢で担当者と連絡が取れるようになっており、ここ一年で、術後出血で二人が緊急来院しているという。

同クリニックを運営するひこばえの会の西部正泰理事長は「最近では、不況で会社を休めないという働き盛りの男性や、介護が必要な家族や、子どもがいて入院が難しいという女性に日帰り手術希望者が目立つ。対応できる疾患も徐々に増えてきており、これからも広がっていくのではないかと話している。」